

2026年12月期 第2四半期 決算説明会資料

2026年8月7日
株式会社ナカニシ

免責事項

資料に記載されている情報には、将来の業績に関する見通しが含まれています。これら見通しには不確定要素が含まれており、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は、世界経済の変化や為替相場の変動等により、予想数値とは異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2026 NAKANISHI INC.

歯科事業

Dental Business

補綴歯科治療・歯周病治療・インプラント治療・訪問歯科診療など、広範な歯科治療をカバーする歯科治療機器の開発・製造・販売を行っています。



歯科用ハンドピース



インプラントモーター



超音波スケーラー



歯科用電気モーター

DCI事業

DCI Business

2023年に買収した米国デンタルチェアメーカーDCI社の業績を示すためにセグメントを新設。北米市場向けにデンタルチェアおよびデンタルパーツの開発・製造・販売を行っています。



デンタルチェア



デンタルキャビネット



デンタルチェア用パーツ

外科事業

Surgical Business

脳神経外科・脊椎脊髄外科・整形外科等の医療分野で使用される外科手術用の骨切削ドリルの開発・製造・販売を行っています。

2026年に買収したAcra Cut・Intechの業績は外科事業に含まれます



コンソール



モーター&アタッチメント



ティスポーザブル(バー)



ティスポーザブル(パーフォレーター)

機工事業

Industrial Business

自動車・精密部品等、幅広い製造分野の微細・精密加工で使用するモータースピンドルの開発・製造・販売を行っています。



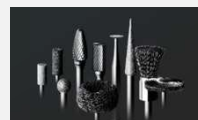
コントローラー&スピンドル



増速スピンドル



超音波カッター



先端工具

© 2026 NAKANISHI INC.

2026年12月期 第2四半期 連結決算概要

執行役員CFO 鈴木 大介

© 2026 NAKANISHI INC.

3

執行役員CFOの鈴木です。
早速ですが決算ブリーフィングを開始いたします。

歯科・DCI・外科・機工のすべての事業で二桁増収を達成。特に、歯科一国内と外科事業が大幅伸長*。円安も追い風となり連結売上高は前年比+20.5%増収。

* Q2からAcra Cut / Intechの連結開始。当期は4~12月(9カ月分)業績を期すれなく取り込む予定

全事業増収に伴う利益増加に加えてAcra Cut/Intechの新規連結が寄与し、連結EBITDAは前年比+22.9%増益。

上半期業績の仕上がりで足元の事業動向をふまえ通期業績予想を上方修正。営業利益・経常利益・当期純利益* のいずれも過去最高益を更新する見込み。

* DCI段階取得に係る差益(一過性の特別利益)を計上した2023年12月期を除く

通期予想の修正に伴い株主還元を拡大。自己株式の取得枠拡大(25→40億円)で総還元性向70%を志向するとともに、株式分割(1→2株)を併せて実施。

© 2026 NAKANISHI INC.

4

まず業績ハイライトについて説明いたします。

当期の決算の特徴の1つ目は、全事業で大幅な増収を達成しているということです。当社は、この4つの事業セグメントの中で、どこかが良いと、どこかが悪いというのが通例でしたが、当期はどの事業セグメントも強い伸びを示しました。ドライバーとなったのは、歯科事業の国内と外科事業です。事業成長が加速する中で、円安の進行が重なりました。

2つ目のポイントは、米国外科医療機器メーカーAcra Cut（アクラカット）およびIntech（インテック）の買収です。両社は実質的にはひとつの事業体ですので、今後の説明では便宜的にアクラカットと呼称します。アクラカットの買収を3月5日に発表しましたが、当初の予定通り4月1日にクロージングし、第2四半期から同社の業績を連結決算に取り込み始めております。

3つ目のポイントは、歯科・DCI・外科・機工の各事業が好調である点をふまえて、通期業績予想を上方修正したことです。EBITDA、営業利益、経常利益の各利益はいずれも過去最高を更新する見込みです。上方修正に伴い、株主還元も拡大してまいります。自己株式の取得枠を25億円から40億円へと拡大して当期中に執行するとともに、株式分割（1株→2株）を行い、当社株式の流動性を高めていく予定です。

百万円

		当期実績 2026/06	前年同期 2025/06	前年同期比	
				増減額	増減率
売 上 高		47,234	39,189	+8,045	+20.5%
売上総利益		27,424	23,104	+4,320	+18.7%
	利益率	58.1%	59.0%	-0.9pt	-
E B I T D A*		12,769	10,390	+2,379	+22.9%
	マージン	27.0%	26.5%	+0.5pt	-
営 業 利 益		10,012	7,587	+2,425	+32.0%
	利益率	21.2%	19.4%	+1.8pt	-
経 常 利 益		11,577	6,930	+4,646	+67.1%
	利益率	24.5%	17.7%	+6.8pt	-
親会社株主に帰属する 中間純利益		8,144	3,510	+4,634	+132.0%
	利益率	17.2%	9.0%	+8.3pt	-
E P S	(円)	98.07	41.84	-	-
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額					
為替レート	- 米ドル (円)	158.30	149.01	+9.29	-
	- ユーロ (円)	184.76	162.62	+22.14	-

* 為替影響額：売上高 +2,884百万円（前年同期比） +2,448百万円（予想レート比）

© 2026 NAKANISHI INC.

5

損益決算書のポイントは大きく4つあります。

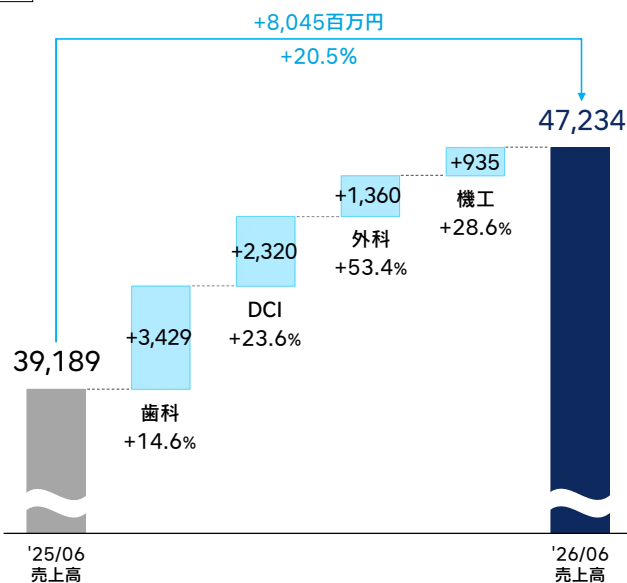
1つ目は、トップライン：472億円、EBITDA：127億円と、上半期業績としては非常に高い水準となったことです。円安進行に伴う業績かさ上げ効果を除外しても、力強いオーガニックグロースを実現していました。

2つ目のポイントは粗利率です。当期の粗利率は58.1%となりました。アクラカット買収時（3/5付）に発表した業績予想では粗利率55%としていましたが、これを上回りました。粗利率改善の背景としては、①為替が円安にシフトしていること、②トップラインが伸びていることで固定費比率が薄まったこと、③収益性の高いアクラカットが計画通りの業績を残したことなどが挙げられます。

3つ目のポイントは、連結売上高が前年同期比+20.5%と大幅伸長したことです。第1四半期決算に比べると増収率は少し落ちましたが、これは昨年3月に開催されたInternational Dental Show（IDS）という世界最大の歯科展示会の影響が出ているためです。隔年開催されるこの展示会は出展各社が新製品をお披露目する場を兼ねていますので、IDS開催直前である前年第1四半期は、お客様の買い控えが発生し、IDS開催後の第2四半期は一転して販売が大幅伸長する傾向にありました。このため前年同期比という観点では、第1四半期は前期に比べて強くなり、第2四半期は逆に弱くなりました。当期の第二四半期の販売が弱まったわけではございません。

最後、4つ目のポイントは為替レートです。米ドル・ユーロともに円安となりました。

百万円



	前年同期 2025/06 A	当期実績 2026/06 B	うち、為替影響額	増減率 B/A-1
歯科事業	23,533	26,962	+1,976	+14.6%
DCI事業	9,834	12,155	+613	+23.6%
外科事業	2,548	3,909	+117	+53.4%
機工事業	3,272	4,207	+177	+28.6%
合 計	39,189	47,234	+2,884	+20.5%
M&A効果(外科事業)			+642百万円	(+1.6%)

© 2026 NAKANISHI INC.

6

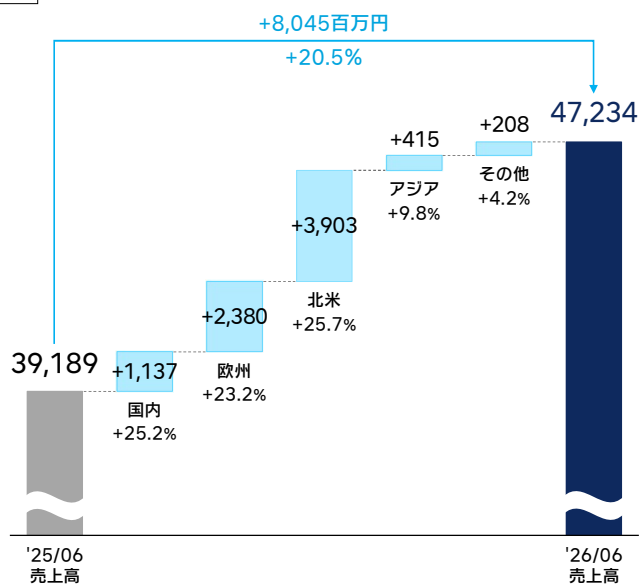
事業セグメント別の売上高の状況です。各事業が高い成長率を見せています。円安進行による影響は+7%ほどですので、為替影響を除いても各事業堅調に伸びていたことになります。

なお、外科事業にはアクラカットの新規連結効果が含まれていますが、外科事業としても高いオーガニックグロースを達成していました。

DCI事業も堅調となりましたが今後の業績動向については注視する必要があります。上半期は、プライベート医院や政府系クリニック、歯科大学など新たにアプローチを強化してきたお客様の需要を取り込むことで業績を上げてきましたが、一方、従来から取引のあったDental Service Organizations (DSO) の大口案件を失う可能性も出てきています。過度な値下げ交渉には応じていないためです。DSOは薄利多売のビジネスであるため、大口商談を失ったとしても業績のボトムラインへの影響は限定的であると見込んでいます。

機工事業ではイエガーの再建を進めており、上手く進んでいます。再建プロセスが進んでいることが業績向上につながりましたが、イエガーの再建プロセスは道半ばですので、業績が再び落ち込むリスクは残存しています。

百万円



	前年同期 2025/06 A	当期実績 2026/06 B	うち、為替影響額	増減率 B/A-1
国 内	4,511	5,648	-	+25.2%
欧 州	10,276	12,657	+1,307	+23.2%
北 米	15,195	19,098	+924	+25.7%
ア ジ ア	4,224	4,640	+208	+9.8%
そ の 他	4,981	5,190	+444	+4.2%
合 計	39,189	47,234	+2,884	+20.5%
M&A効果(北米)			+642百万円	(+1.6%)

© 2026 NAKANISHI INC.

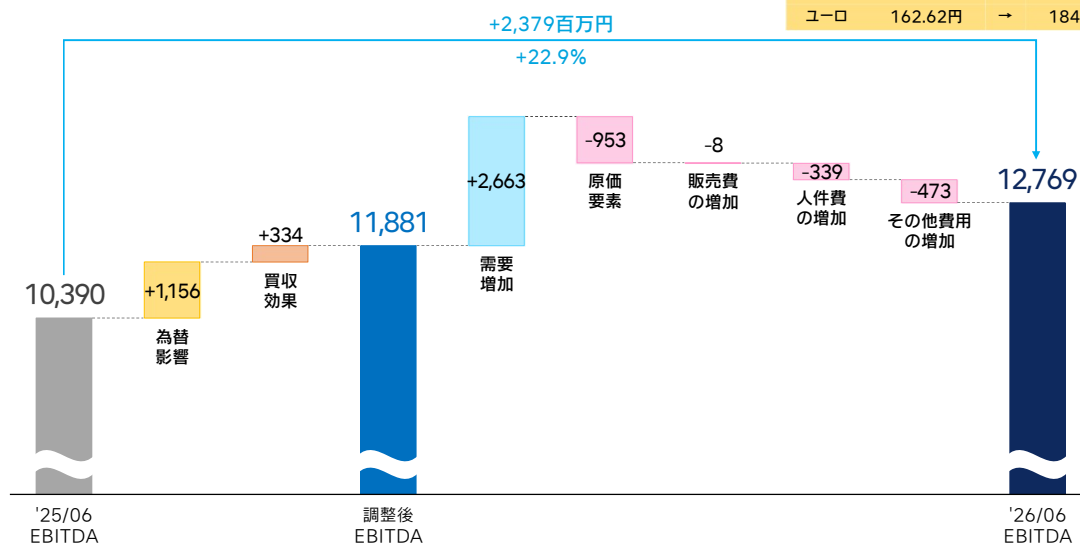
7

地域別売上高の状況です。

先ほど申し上げた通り、欧州の増収幅が第1四半期に比べると少し落ちたように見えますが、これは前年に開催されたIDSによる影響ですので、欧州販売は堅調に推移していると捉えています。北米市場では第2四半期に向けて成長が加速しました。歯科・外科ともに売上拡大しました。

百万円

	平均為替レート	
	2025/06 実績	2026/06 実績
米ドル	149.01円	→ 158.30円
ユーロ	162.62円	→ 184.76円



© 2026 NAKANISHI INC.

8

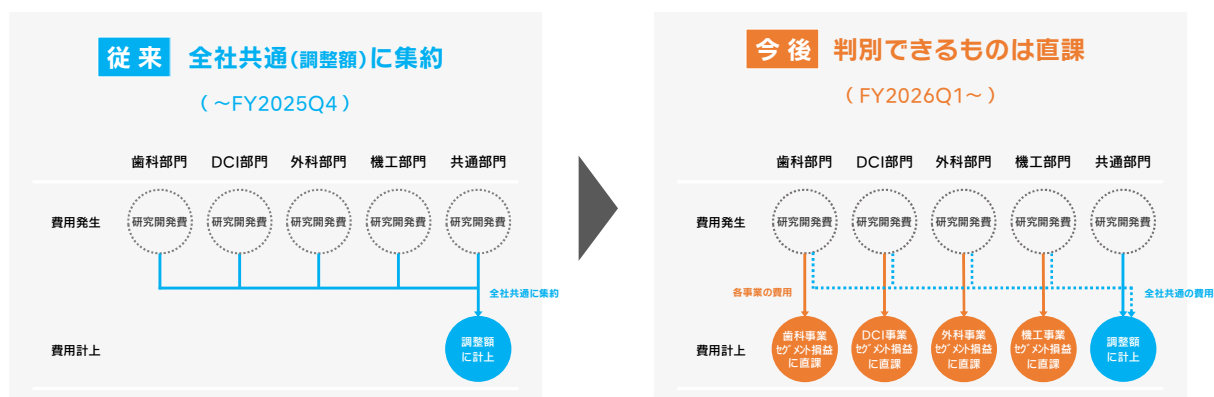
EBITDAの増減を要因別に整理しています。

ポイントは3つございます。1つ目は未実現利益、2つ目は在庫、3つ目は米国関税による影響です。これらの3つの要素がEBITDAに大きな影響を及ぼしています。

未実現利益による影響はマイナス13億円ほど、在庫増減による影響はプラス11億円ほど、米国関税の影響はマイナス8億円ほどとなりました。これらの要素を合わせるとおおよそ9~10億円ほどのマイナスインパクトとなっていました。

販売費はほぼ横ばいとなっていますが、前年は隔年開催のIDSの出展費用が発生していましたが、当期はこれが無くなった代わりに各事業の販売費が増えてオフセットされました。

NV2030目標達成に向けて各事業で成長投資に着手 研究開発費を事業毎に明確化して収益管理を精緻化



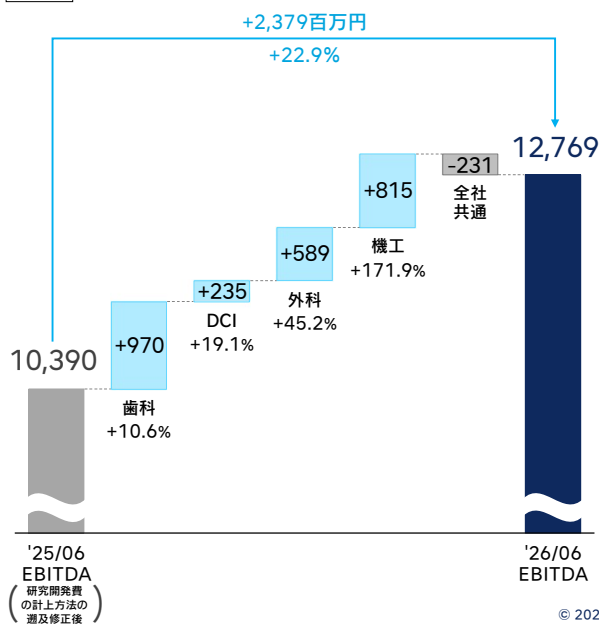
© 2026 NAKANISHI INC.

9

2026年12月期第1四半期から研究開発費の計上方法を変更しています。

従来、研究開発費はすべて「調整額」に計上していましたが、当期からは内容に応じて各事業セグメントに直課する形にしました。

百万円



	前年同期 2025/06 A	遡及修正後 前年同期 2025/06 A'	当期実績 2026/06 B	増減率 B/A'-1
歯科事業	9,782	9,136	10,107	+10.6%
DCI事業	1,233	1,233	1,469	+19.1%
外科事業	1,408	1,304	1,894	+45.2%
機工事業	531	474	1,290	+171.9%
全社共通	-2,565	-1,759	-1,990	-
合 計	10,390	10,390	12,769	+22.9%

為替影響額(前年同期比) +1,156百万円 (+11.1%)

M&A効果(外科事業)(前年同期比) +334百万円 (+3.2%)

© 2026 NAKANISHI INC.

10

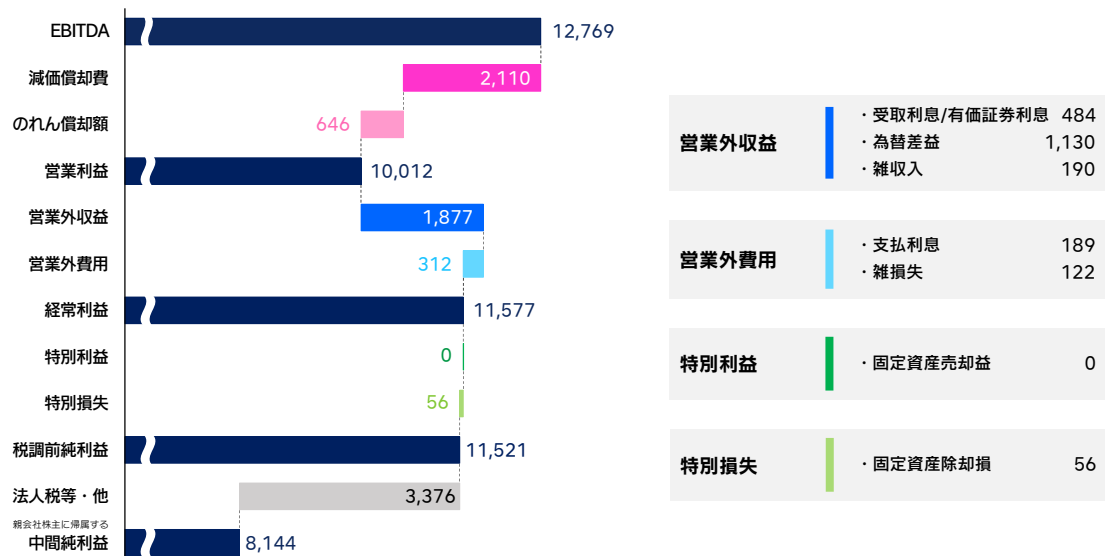
研究開発費の計上方法を変更したことに伴い、前年同期実績を遡及修正したものを本ページに掲載しています。

事業別EBITDAの増減に関してポイントは2つあります。

1つ目はDCI事業です。当期EBITDAは前年同期に比べて増加しましたが、EBITDAマージンはやや低下しました。米国関税により売上原価率が押し上げられたのですが、増収効果や顧客ミックスの変化（プライベートクリニックや歯科大学・政府系機関の案件に注力）でこれを打ち返してこの業績を出しており、健闘したと捉えています。

2つ目は機工事業です。ナカニシ単体の販売が堅調に推移したほか、イエガーの黒字転換も相まって機工事業のEBITDAは増益となりました。

百万円



© 2026 NAKANISHI INC.

11

当期は為替差益を11億円計上しました。一方、本日公表した通期業績予想においては、下半期（2026年7月～12月）は一転して為替差損10億円が発生する、通期では為替差損益はほぼ発生しないという前提で作成しています。このため、もし為替レートが円安基調で推移した場合は、業績予想に対してアップサイド要素となりえます。

百万円

	当 期 末 2026/06	前 期 末 2025/12	増減額	主な増減内容	
総資産	174,551	160,155	+14,395		
- 現金及び預金	56,375	61,317	-4,941		
- 棚卸資産	27,189	25,565	+1,623	・ 商品及び製品	+608
- のれん	17,881	5,391	+12,490	・ 仕掛品	+396
				・ 原材料及び貯蔵品	+618
負債	52,541	46,081	+6,460		
- 有利子負債	33,880	26,772	+7,107	・ 短期借入金	+8,345
				・ 1年内返済長期借入金	+757
				・ 長期借入金	-1,994
純資産	122,009	114,074	+7,935	・ 為替換算調整勘定	+1,657
- 利益剰余金	115,865	110,046	+5,819		

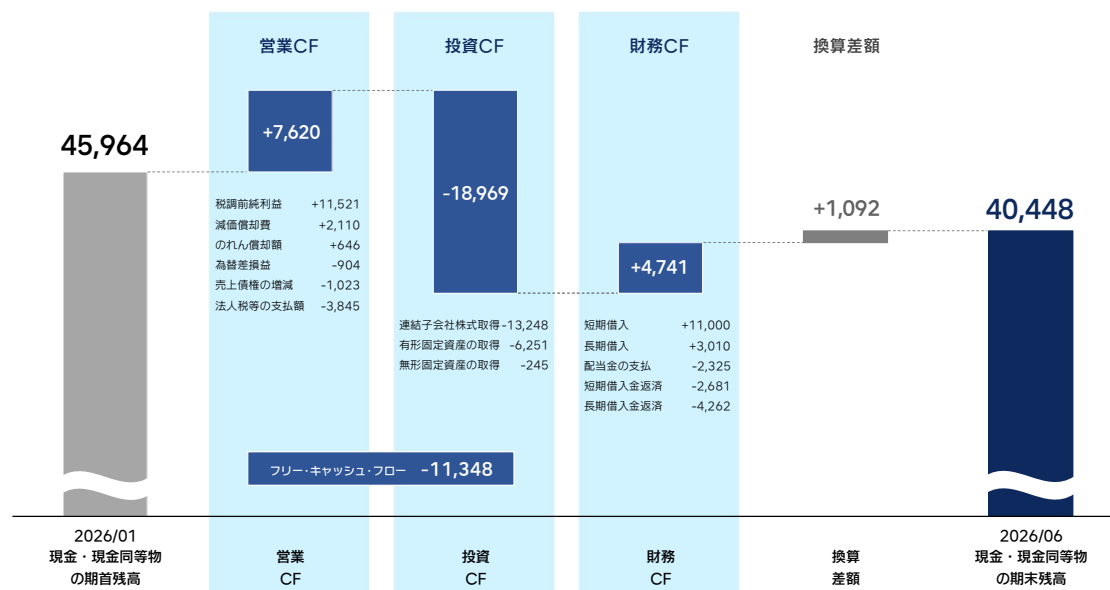
	当期実績 2026/06	前期実績 2025/06	増減額	当期実績の主な内容	
設備投資額	6,245	3,101	+3,144	・ 機械装置	439
減価償却費	2,110	2,078	+32	・ 子会社新社屋	5,163

バランスシートのポイントは2つあります。

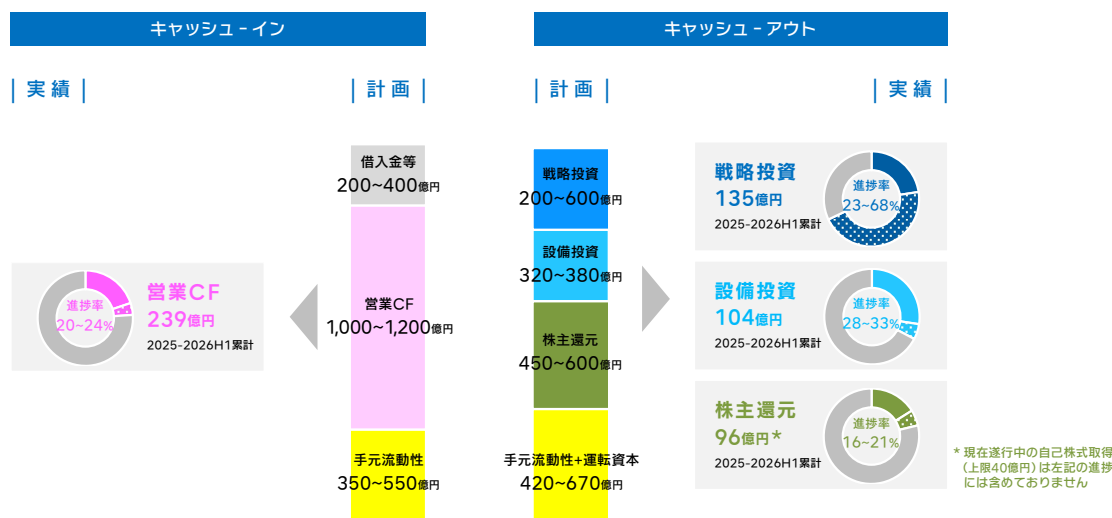
1つ目は、棚卸資産の原材料及び貯蔵品を意図して増やしている点です。当社は現在、在庫回転率を高める取り組みを進めていますが、この原材料調達に関しては例外扱いをしております。

2つ目は、設備投資額です。現在までに62億円ほど実行していますが、その大部分が子会社の新社屋に充てられています。主な内容としては米国子会社DCIによるものです。DCIは土地や建物を自社所有せずリースで賄っていましたが、これを自社所有に切り替える予定です。詳細はこのあと中西英一の説明で触れさせていただきます。

百万円



NV2030目標値に対する進捗状況



© 2026 NAKANISHI INC.

14

NV2030で掲げたキャッシュアロケーションの進捗状況です。特筆すべき点は特にありませんが、順調に推移していると捉えています。

2026年12月期 連結業績予想

(2026/8/7 修正)

2026/2/12 期初に策定した通期業績予想

- すべての事業で増収、売上高は881億円（前期比+9%）と予想。6期連続で過去最高売上高を更新する見込み。
- 成長投資として販売費・人件費・研究開発費等の費用増加を見込むも、増収に伴う利益増加でこれを打ち返し EBITDAは206億円（前期比+4%）、のれん償却減により営業利益は156億円（前期比+11%）を見込む。
- 為替レートは1米ドル=150円 / 1ユーロ=170円と想定。前期に計上した為替差益の剥落で経常利益は154億円（前期比-9%）、前期に計上した一過性の費用や税金等の解消により当期純利益は109億円（黒字化）を見込む。

2026/3/5 通期業績予想の上方修正#1

- 買収したAcra Cut・Intechの2026年4～12月（9カ月）業績の取り込みにより、業績予想を上方修正

2026/8/7 通期業績予想の上方修正#2

- 歯科・DCI・外科・機工の各事業の上半期業績の仕上がり足元の事業動向をふまえて、業績予想を上方修正

当期業績予想について説明いたします。

アクラカットの買収を発表した本年3月に業績予想を上方修正しておりました。アクラカットの業績取り込みを反映したのですが、これに続き本日、業績予想を再び上方修正いたしました。修正のポイントは3つです。

1つ目は、売上高およびEBITDAの金額水準です。売上高は945億円、EBITDAは243億円としました。これは中期経営計画「NV2030」で掲げた中間業績目標（2027年12月期）とほぼ同等の水準となっています。つまり中期業績目標を1年前倒しで達成する見込みです。

2つ目は、EBITDAマージンが25.8%に到達する見込みということです。事業成長に伴う売り上げ拡大のほか、円安進行による業績かさ上げも重なり、マージン改善が進む見込みです。

3つ目は、為替レートの洗い替えです。従来予想では1米ドル=150円、1ユーロ=170円としていましたが、これを1米ドル=155円、1ユーロ=180円に改定しました。

百万円

	修正予想 8/7公表	前回予想 3/5公表	前回予想比		前期実績 2025/12	前期比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	94,480	90,185	+4,294	+4.8%	81,179	+13,301	+16.4%
売上総利益	54,486	50,176	+4,309	+8.6%	46,060	+8,425	+18.3%
利益率	57.7%	55.6%	+2.0pt	—	56.7%	+0.9pt	—
EBITDA*1	24,340	21,854	+2,486	+11.4%	19,899	+4,441	+22.3%
マージン	25.8%	24.2%	+1.5pt	—	24.5%	+1.2pt	—
営業利益	18,649	16,215	+2,433	+15.0%	14,089	+4,559	+32.4%
利益率	19.7%	18.0%	+1.8pt	—	17.4%	+2.4pt	—
経常利益	19,062	16,091	+2,971	+18.5%	16,933	+2,128	+12.6%
利益率	20.2%	17.8%	+2.3pt	—	20.9%	+0.7pt	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,544	11,193	+2,351	+21.0%	-2,398	+15,943	—
利益率	14.3%	12.4%	+1.9pt	—	-3.0%	+17.3pt	—
E P S (円)	163.10*2	133.96	—	—	-28.70	—	—

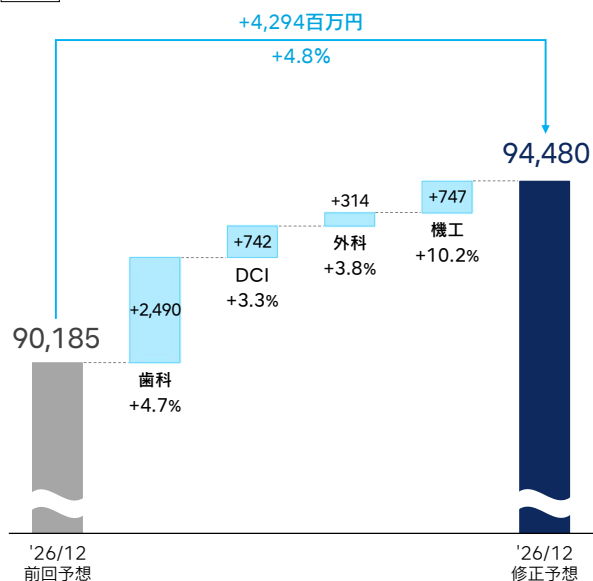
*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

*2 8/7発表の株式分割を考慮しないEPSを記載。株式分割実施後のEPSは81.55円となる見込み。

修正予想		前回予想		
想定為替レート		下半期(7~12月)想定レート	下半期(7~12月)想定レート	
- 米ドル	(円)	155.00	150.00	+5.00
- ユーロ	(円)	180.00	170.00	+10.00

参考 為替感応度 米ドル：1円変動で年間売上高284百万円の増減
ユーロ：1円変動で年間売上高103百万円の増減

百万円



	前期実績 2025/12 A	(3/5公表) 前回予想 2026/12 B	(8/7公表) 今回予想 2026/12 C	増減率 C/B-1
歯科事業	48,197	52,441	54,932	+4.7%
DCI事業	20,538	22,270	23,012	+3.3%
外科事業	5,537	8,173	8,487	+3.8%
機工事業	6,906	7,301	8,048	+10.2%
合 計	81,179	90,185	94,480	+4.8%
為替影響額 (前年同期比)			+4,260百万円	(+5.2%)
M&A効果(外科事業に包含) (前年同期比)			+1,895百万円	(+2.3%)

© 2026 NAKANISHI INC.

18

業績予想における事業別売上高の増減を示しています。

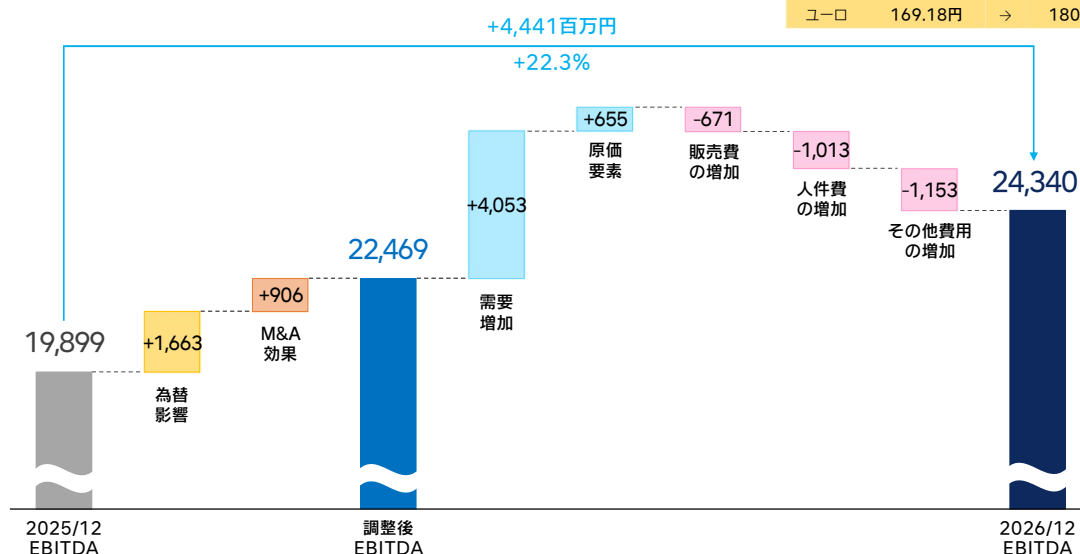
歯科事業および外科事業は下半期も売上拡大が続くという前提としています。

一方、DCI事業・機工事業は下半期にリスクシナリオを織り込んでいます。DCI事業ではDSOビジネスのスローダウンを、機工事業では受注動向の一服感やイエガの業績動向の不透明さを織り込みました。

当社全体の連結業績としては、売上高は上半期実績と下半期予想がほぼイコールになるであろうと見込んでいます。

百万円

平均為替レート		
	2025/12 実績	2026/7~12 予想
米ドル	150.43円	→ 155.00円
ユーロ	169.18円	→ 180.00円



© 2026 NAKANISHI INC.

19

EBITDAの増減のポイントは、「その他費用の増加」として11億円を見込んでいる点が挙げられます。下半期は販管費計画の遂行が進み、販管費は増加する見込みです。トップラインは上半期と下半期とがほぼ同等となる見込みですが、費用は下半期に増加する見込み、つまり利益は下半期は減少する傾向となる見込みです。

この「その他費用」には研究開発費が含まれております。来年、2027年は隔年開催の世界最大の展示会International Dental Showの開催を控えており、これに向けて新製品開発を加速させていく計画としています。

株主還元

株式分割 および 自己株式の取得枠拡大

株式分割によって投資単位当たりの金額を引き下げ
当社株式の流動性の向上・投資家層の拡大を図る

基準日：2026年9月30日(水)

分割方法：普通株式 1株 ▶ 2株

発行済株式総数： 92,218,200株 ▶ 184,436,400株

発効可能株式総数： 375,000,000株 ▶ 737,000,000株

効力発生日： 2026年10月1日(木)

先ほどご説明しました業績予想の修正をふまえて、株主還元の充実も併せて実行してまいります。ひとつは株式分割です。当社株式の流動性をさらに高めるべく、効力発生日を10月1日として、当社株式1株あたり2株へと分割する予定です。

2026年12月期業績予想の上方修正(8/7)をふまえて
自己株式の取得枠を拡大して総還元性向70%を目指す

	変更前 2026/2/12 取締役会の決議内容		変更後 2026/8/7 取締役会の決議内容
取得する株式の種類	当社普通株式		当社普通株式
取得する株式の総数	上限 1,500千株 発行済株式総数(自己株式を除く) に対する割合 1.81%	+500千株 →	上限 2,000千株 発行済株式総数(自己株式を除く) に対する割合 2.41%
取得価額の総額	上限 2,500百万円	+1,500百万円 →	上限 4,000百万円
取得期間	2026年2月13日 ～ 2026年12月30日		2026年2月13日 ～ 2026年12月30日

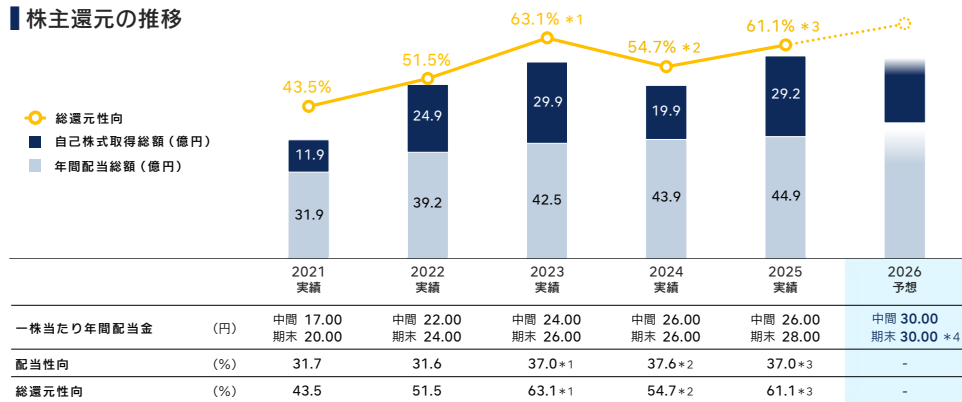
また、期初から遂行している自社株買いの取得枠を拡大いたします。
取得金額を最大25億円から40億円へと15億円増額したうえで、実行してまいります。

■ 株主還元の方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつと位置付け、事業基盤の強化や成長領域への投資を適正かつ積極的に推進しつつ、株主還元をバランスよく実施

中期経営計画「NV2030」では株主還元の指標として総還元性向（自己株式取得+配当）を引き続き採用。「累進配当制度」を適用し「総還元性向70%」に引き上げ

■ 株主還元の推移



*1 DCI買収に係る特別利益等を除外した調整後純利益を基準に算出
*2 仕入減損に伴う特別損失等を控除した調整後純利益を基準に算出
*3 DCI減損に伴う特別損失等を控除した調整後純利益を基準に算出
*4 8/7付で発表した株式分割（1株→2株）を実施した場合、期末配当は一株当たり15円

© 2026 NAKANISHI INC.

23

なお、配当は期初予想通りとしています。

以上で決算概況に関する説明を終了いたします。

事業概況と今後の施策

代表取締役社長執行役員 中西 英一

© 2026 NAKANISHI INC.

24

社長の中西です。
事業概況と今後の施策について説明します。

国内・北米・欧州など先進国市場の販売が大きく伸長
新興国市場では地域差があるものの緩やかに伸長



© 2026 NAKANISHI INC.

25

まず地域別の売上高の状況を説明いたします。

日本、アメリカ、ヨーロッパなど先進国市場においては、全ての事業セグメントで大幅増収を達成しました。一方、アジアやその他の新興国市場においては、地域毎・事業毎に状況が異なり、一部では販売減もありました。

さらなる事業成長に向けた海外拠点の新設・強化

欧 州

強化	NSK Europe	ドイツ	2003	歯科・外科
新設		東欧	2026	歯科
	NSK France	フランス	2005	歯科
強化	NSK United Kingdom	イギリス	2007	歯科・外科
強化	NSK Dental Spain	スペイン	2008	歯科・外科
	NSK Dental Italy	イタリア	2013	歯科
	NSK Dental Nordic	スウェーデン	2019	歯科
	Nakanishi Jaeger	ドイツ	2022	機工
新設	NSK Schweiz	スイス	2026	歯科

北 米

大幅増員	NSK America	米国 (IL)	1984	歯科・外科・機工
	DCI International	米国 (OR)	2023	DCI
買収	Acra Cut / Intech	米国 (MA)	2026	外科

アジア

	NSK Shanghai	中国 (上海)	2005	歯科・外科
移転	NSK Asia	タイ	2009	歯科
	NSK Dental Korea	韓国	2014	歯科
強化	NSK Dental Manufacturing	中国 (四川)	2023	歯科・外科
	REFINE Medical	中国 (桂林)	2023	歯科

その他 (南米・中近東・ロシア・オセアニア)

強化	NSK Middle East	U.A.E.	2000	歯科・外科
	NSK RUS	ロシア	2007	歯科
	NSK Oceania (AU)	オーストラリア	2007	歯科
	NSK Oceania (NZ)	ニュージーランド	2007	歯科
強化	NSK America Latina	ブラジル	2013	歯科・外科
新設	NSK Turkey	トルコ	2025	歯科

さらなる事業拡大に向けて、近年、グローバルネットワーク、販売網の強化を進めてきました。昨年後半から今年前半にかけて、特に歯科事業・外科事業の営業網を強化しました。今年後半から来年にかけて、この成果が出てきてくれるものと期待しています。



国内

上半期の概況

販売実績
(前期比)
(現地通貨)

- 流通改革が奏功しハンドピースや予防歯科製品など幅広く販売伸長。売上は前期比+32%と大幅増収。
- OEMビジネスは二桁増収。既存製品の伸長に加え新製品が寄与。

下半期の施策

販売計画
(前期比)
(現地通貨)

- 新たな流通網の立ち上がり順調。ハンドピースや予防歯科製品の拡販、販売店との関係強化進む。
- OEM先との関係強化を推進。



欧州

上半期の概況

販売実績
(前期比)
(現地通貨)

- 2025年発売の予防歯科新製品の販売好調が続き、増収に寄与。
- NSKブランド製品群が顧客に選ばれ続けており、主要地域のほぼすべてにおいて販売伸長。

下半期の施策

販売計画
(前期比)
(現地通貨)

- 主力のハンドピースやインプラントモーター、予防歯科製品を拡販。
- 新設した海外拠点を基盤にして更なる商機獲得を目指す。

次に、各事業の地域ごとの状況について説明します。

まず歯科事業です。国内市場では、昨年10月1日から実施した流通改革の効果が表れていました。新たに取引を開始した特約店との関係強化に向けて当社営業担当がきめ細かなフォローを続けつつ様々な販促活動を展開したことによって、NSKブランド販売は前年比+32%と大幅に伸長しました。OEM販売も順調で2桁増収を達成しました。下半期も引き続き販売を伸ばしていきたいものと思っております。

欧州市場では、ほぼすべての現地法人で増収を達成しました。当社のブランド力、製品力、販売力、これらがうまく機能したことにより、需要はフラットながらも競合他社からシェアを奪い、売上を拡大することができました。昨年上市した予防歯科製品の販売が非常に好調で、下半期も売上拡大に寄与してくれるものと期待しています。



2026年5月

CDA2026 (カリフォルニア)

北 米

上半期の概況

販売実績
(前期比)
(現地通貨)

- 北米市場は横ばいながらもNSKブランドシェア拡大で二桁増収。
- DCIのNSKバンドル率が向上しハンドピース販売を底上げ。
- 主要OEM販売が減少。

下半期の施策

販売計画
(前期比)
(現地通貨)

- ハンドピース等主力製品の拡販とDCIとのバンドル販売に注力。
- DSO・歯科大学アプローチ強化。
- OEMビジネスの拡充を推進。



2026年3月

Dental South China (中国・広州)

アジア

上半期の概況

販売実績
(前期比)
(現地通貨)

- 中国：需要回復は見通せない中販売低調。
- 韓国：需要は弱含むも販売回復。
- アジア：入札獲得により売上回復。

下半期の施策

販売計画
(前期比)
(現地通貨)

- 公立病院の入札案件を着実な取り組み、売上確保を図る。
- アジアでは需要回復の兆しが見える中、自社ブランドやリファイン製品の拡販に注力。

北米市場では、需要はほぼフラットでしたが、当社の製品力と販売力、またディーラーとの緊密な関係性がうまく機能し、着実に市場シェアを拡大させています。DCIと当社製品のバンドル販売も順調に拡大しており、昨年に比べて販売レートが良化しています。一方、OEM製品は販売減となりました。下半期では引き続き自社ブランドの販売が拡大していく想定です。特に、歯科大学へのアプローチも着実に進展しており下半期にはさらに業績拡大に寄与してくれるものと期待しています。OEM販売は下半期からの復調に向けて、新たなOEMビジネスの立ち上げに注力しています。

アジア市場は逆に非常に厳しい状況です。中国市場は冷え込んでおり、回復の兆しはまだ見えていない状況です。市況弱いながらも売上は維持しておりました。下半期は入札案件等を着実に獲得していくことで売上を確保していきたいと考えています。

韓国・アジア市場では、この上半期も市況改善は見られませんでした。下半期から徐々に回復してくると予想しています。



	上半期の概況 販売実績 (前期比) (現地通貨)	下半期の施策 販売計画 (前期比) (現地通貨)
中近東	紛争影響が続いているもののQ2から需要は徐々に回復。大型案件の獲得も重なり二桁増収を達成。	先行き不透明な状況が続くものの入札案件への対応強化やアフターサービスの訴求で需要掘り起こし。
南 米	需要は底堅く推移しているものの大きなディールを失い販売減少。	価格競争には適切に対応しつつもKOL連携を通じて市場プレゼンス向上と付加価値訴求を推進。
ロシア	需要減退が進む中、ロシア販売は前期並みとなったもののCIS諸国向けが伸び悩み、減収。	CIS諸国における販売網の強化とリファインを含めた主力製品群の拡販。
豪 州	需要は弱含んだものの代理店向け販促施策や政府入札案件の獲得で販売は横ばい。円安効果で増収。	主力のハンドピースのほか、市場ニーズの高い予防歯科製品や訪問歯科治療機器の拡販に注力。

© 2026 NAKANISHI INC.

29

次に新興国市場「その他の市場」について、説明します。

まず、中近東では地域紛争の拡大で混乱が続いていますが、サウジアラビア等で大型の入札案件を獲得するなど、2桁増収を達成しました。一部の地域では入札案件も出ておりますので、これら需要の戻りを着実に取り込んでいきたいと考えています。

南米の需要は底堅いものの、中国メーカーの浸食によって競争は激化しています。特にローエンドからミドルレンジにかけては価格競争が激しくなっており、ブラジルでの販売は減少しました。

ロシアの需要はフラットな状態が続いており、当社の市場シェアは前年並みとなりました。一方、CIS諸国の販売は伸び悩みました。

下半期はロシアで需要回復が進むと想定しており、販売を伸ばしていきたいと考えています。

豪州の需要は弱いものの、販売代理店との関係強化や政府系入札案件を着実に獲得した結果、前年並みの売上を確保しました。予防歯科の新製品を軸に拡販していきたいと思ひます。

市場競争が激しくなる中、相乗効果の高い NSK x DCIバンドル販売で付加価値を訴求

事業トピックス



NSK x DCI バンドル販売

DCI買収の最大の狙いは、NSK x DCI製品のバンドル販売によって歯科用ハンドピースの米国シェアを拡大することにあります。2026年上半期のバンドル販売率は36%と順調に拡大し、過去最高水準となりました。



新本社・新工場の取得

2026年6月、DCIは、オレゴン州ウィルソンビルにある土地・建物を取得しました。約97,000㎡に及ぶ広大な敷地には、本社・工場に加え倉庫やショールームを備え、持続的な成長を支える事業基盤として整備していく予定です。

上半期の概況

市場動向

・米国市場全体のデンタルチェアの販売台数は前年比+2%

事業動向

・値上前の駆け込みも取り込み、DCIの販売台数は前年比+9%
・駆け込み需要と販売単価上昇により大幅増収。前年比+20%

下半期の施策

市場予測

・需要は底堅く推移するものの、市場競争は激化する見込み

主な施策

・プライベート医院・歯科大学・政府系機関へのアプローチ強化
・NSK x DCI バンドル販売率のさらなる拡大

次にDCI事業の概況です。

米国のデンタルチェア市場は競争が激しくなっています。また、市場成長は前年比+2%とほぼフラットな状況です。このような中、上半期は大幅増収を達成することができました。このトレンドは続くと想定していますが、一方で、大手DSOとのディールを失う可能性も出てきています。これまで以上にプライベートクリニックや歯科大学へのアプローチを強化し、販売を下支えしていきます。

DCI事業のニュースとして、この度DCIの新本社・新工場を取得しました。実際の移転は2028年度になる見込みです。DCIの現在の工場は複数の建屋に分かれており、生産の導線が非常に複雑で長く、不効率なオペレーションになっています。新工場では効率的なオペレーションを実現していくとともに、ショールームを作って全米からのお客様をお迎えするホスピタリティ空間を設けていきたいと考えています。



	上半期の概況 販売実績 (前期比) (現地通貨)	下半期の施策 販売計画 (前期比) (現地通貨)
国 内	競合撤退に伴う商談獲得が順調に進んだほか、ティスポ製品の販売も伸長して大幅増収。	営業力強化と新製品の販売体制の構築を推進。学会セミナー等への出展を通じて需要取り込みを図る。
欧 州	各現地法人を軸とした営業体制の整備と新規代理店開拓が奏功して大幅増収。	販路拡大による新市場開拓を遂行。新製品トライアルを通じた顧客との接点強化・製品拡販を推進。
北 米	AcraCutの販売は計画線に着地、NSK製品販売は好調で大幅増収。市場シェアは着実に拡大。	KOLニーズに合致する新製品の発売で案件獲得を狙うとともに営業体制の強化を図る。
アジア	主力の中国市場で入札案件の獲得やティスポ販売が伸長。韓国でも競合撤退需要を取り込み販売伸長。	主力市場の中国をフォローしつつ韓国や東南アジア諸国の営業体制の強化によって更なる拡販を図る。

外科事業は非常にポジティブ状況が続いています。

堅調にオーガニックグロースを実現すると同時に、競合他社の市場撤退による新規案件獲得を順調に重ねており、事業成長が加速しています。また、米国では大手医療機器メーカーとのコラボ案件が順調に拡大しており、今後の収益にも大きく貢献してくれるものと期待しています。下半期もこのトレンドが続く見込みです。なお、買収したアクラカットの業績も堅調で、今後、シナジー効果が徐々に出てくると見込んでいます。



国内

上半期の概況

販売実績
(前期比)
(現地通貨)

■ 大手工具メーカーとの協業や増速スピンドルの拡販等の提案型営業活動が奏功し二桁増収。

欧州

■ 代理店網の拡充効果が出て販売増。イエガー製品の販売回復も重なり大幅増収を達成。

北米

■ 旺盛な需要を背景に自動車関連・医療機器関連案件の獲得が進み大幅増収を達成。

アジア

■ 中国市場向けの自動旋盤用スピンドル案件を獲得したほか、底堅い需要を着実に取り込んで販売伸長。

下半期の施策

販売計画
(前期比)
(現地通貨)

■ 工具メーカー協業深化や自動化・省人化の提案営業を一層強化。

■ 代理店網を活用した引き合い案件の取り込みとイエガー再建を遂行。

■ 需要は底堅く続いており自動車・医療機器関連等の需要掘り起こし。

■ 中国の大型案件完了を見越して各地域の主要顧客アプローチを継続。

最後に、機工事業の状況です。上半期業績は非常に良い仕上がりとなりました。国内市場と米国市場が業績拡大に大きく寄与してくれました。当社のスピンドルは、精密微細加工に強みを発揮します。これらの加工シーンで我々の製品が選ばれ続けています。なお、下半期の販売動向としては、上半期に比べるとやや減速するものと予想しています。

以上、ご説明いたしました。ご清聴ありがとうございました。

